



会 告

平成14年7月3日

(社)日本放射線技術学会中部部会

部会長 成田 廣幸

開催委員長 嘉戸 祥介

第37回中部部会研究発表会開催のご案内

(社)日本放射線技術学会第37回中部部会研究発表会を下記の要領にて開催いたします。多数の会員の皆様をご参加下さいますようお願い申し上げます。また、第36回発表会と同様、学生会員の演題応募を歓迎いたします。

記

日時： 平成14年11月9日(土), 10日(日)

会場： ボルファートとやま

富山市奥田新町 8 1 (富山駅北口徒歩 5 分)

TEL 076-431-1113

内容(予定)：

特別講演：「ニュートリノ研究から宇宙を探る」(仮題)

梶田隆章教授 東京大学宇宙線研究所

シンポジウム：未定

各研究会開催，会員研究発表

中部部会年会：部会長挨拶，本部理事挨拶，表彰式，次期開催地紹介

なお，プログラムなどの詳細は次号のビーム中部 4 号に掲載いたします。

行事予定

8 月中の研究会行事等はありません

日本放射線技術学会中部部会 ビーム中部 2002

(社)日本放射線技術学会中部部会 研究発表会 演題募集要項

1. 発表方法

- 1) 発表時間 口述7分以内+質疑応答3分以内とします。
- 2) スライド 横位置スライドの一面映写で10枚以内にして下さい。
- 3) パソコン+液晶プロジェクタ 一面映写で10枚以内にして下さい。
発表者はノートパソコンを持参してください。XGA(1024×768)またはSVGA(800×600)、入力端子：VGAコネクタ(ミニD-SUB15ピン)を使用します。
プロジェクタ用信号を出していただければ、内容はスライドプレゼンテーションに限らず、プログラムを実行していただいてもかまいませんが、発表時間は厳守して下さい。(ただし、接続がうまく行かなかった場合、発表時間の延長は行いませんので、あらかじめ会場で接続テストをされることと、念のため発表スライドを持参されることをお勧めします。)
- 4) VTR S-VHS又はVHSテープのみ使用可能です。
ただし音声の使用およびスライド、パソコンとの同時映写はできません。

2. 応募方法

- 1) 応募資格は、中部部会会員および学生会員です。
 - ・まだ会員になられていない場合は、演題申込と同時に入会手続きを行って下さい。
 - ・入会申込書は部会事務局にFAX又は電子メールで請求下さればお送り致します。
- 2) 発表希望者は演題申込書の様式で必要事項を記入の上、申し込んで下さい。
- 3) 演題申込： 電子メールまたは郵送で受け付けます。
 - ・電子メール申込みの場合は以下の申込書の書式で必要事項全てをお書きの上、『発表抄録をメール本文に書いて』お送り下さい。『添付書類は用いない』で下さい。電子メールの題名(Subject)は『中部部会演題申込(発表者名)』としてください。
 - ・郵送の場合は、発表演題抄録を『テキスト形式で保存した』フロッピーディスクを同封してください。(フロッピーは返却致しません)
- 4) 発表演題抄録：【目的】【方法】【結果】【考察】を300~400字で簡潔にお書き下さい。これは事前に座長に送付すると共に、部会WWWページに掲載する予定です。
- 5) 受領確認： 電子メールで申込の方には発信アドレス宛に受領案内を3日以内にメールします。電子メールが正しく読めない場合も折り返し連絡させていただきます。郵送の方は演題申込書を受領後、2週間以内に受領ハガキを発送します。もし受領確認の連絡がない場合には 津坂 までご連絡ください。
- 6) 学生さんの場合は指導教官の連絡先を記載して下さい。

3. 申込締切日 2002年9月9日(月)必着 とします。

4. 申込先 〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20
名古屋大学医学部保健学科 放射線科学専攻内
(社)日本放射線技術学会 中部部会事務局 宛
TEL&FAX 052-723-2566
E-mail tsuzaka@met.nagoya-u.ac.jp

5. その他

お問い合わせは、部会事務局までファックスか電子メールでお尋ね下さい。
事務局 TEL&FAX:052-723-2566 E-mail: office@jsrttb.met.nagoya-u.ac.jp

(社)日本放射線技術学会 中部部会 演題申込書

(以下の形式で、メール本文に必要事項を記入下さい。添付書類では送らないで下さい。)

演題申込書

演者(発表者)名:

施設名:

共同演者名:

(指導教官名)

施設名:

連絡先: 〒

TEL:

FAX:

E-mail:

発表形式: 1)スライド

2)ノートパソコン持ち込み

(持参するパソコン メーカー名: 機種: OS:)

VTR: 使用する 使用しない

---ここから下はそのまま使用させていただきますので、句読点、半角・全角に注意して下さい---

発表演題抄録

演題名:

演者・(指導教官名)・共同演者名:

施設名:

発表演題抄録(300~400字):

(記入例)

- ・演者名: 中部 太郎, 金沢 一郎*, **, *3
発表者に をつけ、共同研究者名をカンマ、で区切って下さい。
姓名の間は半角で1文字スペースをあけて下さい。
- ・施設名: 市民病院放射線科
* 厚生連 病院放射線科
** 大学医学部附属病院放射線部
*3 検査センター
(発表者と施設名の関連がよくわかるようにお書き下さい)
- ・発表演題抄録: 【目的】、【方法】、【結果】、【考察】を300~400字で簡潔にお書き下さい。数字、アルファベットは半角文字、そのほかは全角文字でお書き下さい。

メールの宛先: tsuzaka@met.nagoya-u.ac.jp
メールのタイトル: 中部部会演題申込<発表者氏名>
複数お申し込みの場合は1演題1メールで区切って送信をお願いします

第5回放射線治療研究会

(社)日本放射線技術学会中部部会
放射線治療研究会
東海代表世話人 佐々木 浩二
北陸代表世話人 嘉戸 祥介

放射線治療担当技師 各位

平成14年7月
(社)日本放射線技術学会中部部会
放射線治療研究会

治療計画用コンピュータの
データ設定の再確認！！

今回は、標準測定法の改正に伴う重要な講演を医学物理学測定委員会の中心的役割を担われた西臺先生に解説していただきます。

次に、ご協力頂いたQCアンケート報告を企画しました。両企画ともタイムリーな話題であり、日常業務の重要なポイントと思います。

詳細はビーム4号に掲載いたします。

(アンケート未提出の方ご協力をお願いします。)

日 時：平成14年11月9日(土)

場 所：ポルファート富山

(富山駅徒歩5分：富山県富山市)

内 容：

- 1.講演 「新標準測定法の解説」
西臺武弘 先生 京都医療技術短期大学
- 2.放射線治療QCアンケート報告
佐々木 浩二君

中部部会に関する最新情報は、
部会WWWページもご覧下さい。
URLは
<http://jsrttb.met.nagoya-u.ac.jp/>
です。

Wedge factorのコンピュータへのデータ誤入力により、「予定量を超す放射線照射」による医療事故が起きました。患者さんの心身共の苦痛は耐えがたいものと思います。医療不信のみならず社会的影響も重大です。専門職として、医療責任と役割を各個人が再認識しましょう。最低限、下記に示す項目を再確認するようお願いします。

1. Wedge factorの実測値とデータ設定値の確認
2. TMR, Field factor, 他の係数等の確認
3. シミュレーションによる線量精度の確認
 - 1) 手持ちのテーブルによる手計算とRTPの計算結果の確認
 - 2) ファントムを使って線量測定とRTPの計算結果の照合
(1門照射の基準深・校正深・10cm深における検証)

機種を問わず、データ設定値はプリントアウト可能と思います。解らない場合はメーカーに問い合わせして下さい。既に殆どの施設が確認実施されたと思いますが、まだ未実施の施設の方々「自分の施設は大丈夫！！」

根拠の無い過信は、何れ我が身に降りかかり、患者さんへの不利益を生じさせます。

放射線治療の過誤を再度繰り返さないために、今回の医療事故を教訓にして日常業務とQA業務にがんばりましょう。

(社)日本放射線技術学会中部部会 ビーム中部 第3号

発行： 部会長 成田廣幸
編集： 津坂昌利, 小山修司, 国友理香

印刷：名古屋大学消費生活協同組合印刷部
名古屋市千種区不老町
TEL (052) -781-6698